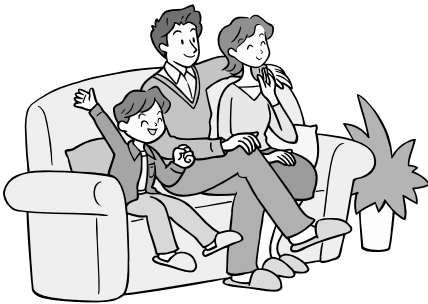
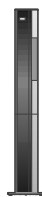
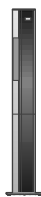
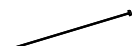
Panasonic®

取扱説明書
スピーカーシステム

品番 SB-FS1100
SB-FS1000
SB-WA1000

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- **ご使用前に「安全上のご注意」（☞13～14ページ）を必ずお読みください。**
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。
  - 保証書はAVコントロールアンプSA-BX500またはSU-XR700の包装ケースに添付しています。

もくじ

■スピーカーシステムの構成

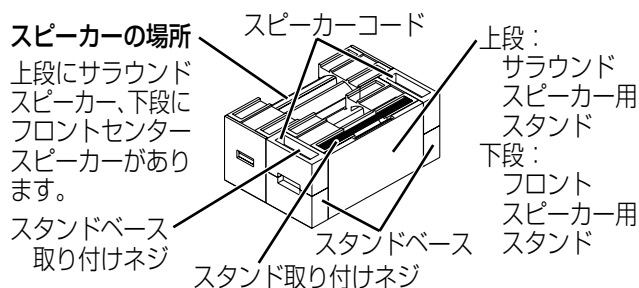
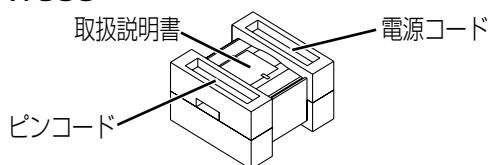
ホームシアターオーディオシステム	フロントセンタースピーカーL	フロントセンタースピーカーR	サラウンドスピーカー（2台）	アクティブサブウーハー
SC-HT7000用	SB-FC1100L	SB-FC1100R	SB-HS1100	SB-WA1000
	スピーカーシステム　SB-FS1100			
SC-HT6500用	SB-FC1000L	SB-FC1000R	SB-HS1000	SB-WA1000
	スピーカーシステム　SB-FS1000			

- フロントセンタースピーカーLは、テレビに向かって左側に、フロントセンタースピーカーRは、右側に置いてご使用ください。
- サラウンドスピーカーは、2台とも同じです。左右のサラウンドスピーカーとしてご使用ください。
- アクティブサブウーハーは、サブウーハーとしてご使用ください。

保証書別添付

RQT8757-MS

付属品・部品の確認

まず最初に付属品・部品を確かめてください。

SB-FS1100/SB-FS1000

□スピーカーコード（約6 m）............ 2本
(REE1397C)
□センタースピーカーコード（約6 m）..... 1本
(REE1393B)
□スピーカーコード（約10 m）.......... 2本
(REE1397)
□スタンドベース取り付けネジ 8本
(XSB4+20FJK)
□スタンド取り付けネジ 4本
(RXQ1496)
□フロントLスタンドベース 1個
SB-FS1100:(RYQ0607-K1)/SB-FS1000:(RYQ0607-S)
□フロントRスタンドベース 1個
SB-FS1100:(RYQ0607A-K1)/SB-FS1000:(RYQ0607A-S)
□サラウンドスタンドベース 2個
SB-FS1100:(RYQ0608-K1)/SB-FS1000:(RYQ0608-S)
□フロントスピーカー用スタンド 2本
SB-FS1100:(RYQ0609-K)/SB-FS1000:(RYQ0609-S)
□サラウンドスピーカー用スタンド 2本
SB-FS1100:(RYQ0610-K)/SB-FS1000:(RYQ0610-S)
□スペーサー 16個
SB-FS1100:(RKA0191-K)/SB-FS1000:(RKA0190-H)
SB-WA1000

□電源コード 1本
(RJA0012-1A)

□ピンコード（約5 m）....................... 1本
(RJLV1P001B50)

付属の部品は、各スピーカーシステムに取り付けるための専用部品です。この取り付け以外にはご使用できません。

包装材料などは商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。

付属品の買い替えは、お買い上げの販売店へご相談ください。（　）内は買い替え時の品番です。
品番は2008年8月現在のものです。

付属品は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックグループのショッピングサイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。
PanaSense http://www.sense.panasonic.co.jp

設置のしかた

本機は、左右のフロントスピーカーにセンタースピーカーを内蔵しています。
聴覚心理学にもとづいたパナソニック独自の「リアルセンター」方式により、テレビの真正面に座っていなくてもテレビ画面の中から音声が聞こえ、より一体感のある音と映像が楽しめます。

- 視聴条件や再生ソースによっては、「リアルセンター」方式の効果が得られにくい場合があります。

■ よりよい音響効果を得るための設置

スピーカーの設置方法によっては、低音の量や音像定位など、音質が変わる場合がありますので、以下のことを参考にして設置してください。

- 平らで安定した場所に設置してください。
- 床、壁、コーナーに近づけて設置すると低音が増えます。
- 堅い壁やガラス窓には、厚地のカーテンなどを掛けることをおすすめします。

■ 設置上のお願い

次のような設置場所は避けてください

- 直射日光のあたる場所など温度が高いところ。
- 振動の多いところや湿気の多いところ。

磁気の影響を受けやすいものは、近づけないでください

スピーカーの磁気の影響で、キャッシュカードや定期券、時計などが正しく働かなくなることがあります。

ブラウン管テレビをご使用中にテレビに色ムラが生じた場合、テレビとの距離を離す

- 設置の仕方によっては、色ムラが生じる場合があります。その場合は、一度テレビの電源を切り、15分～30 分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能により、画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合には、スピーカーを更に離してご使用ください。
  本機は防磁設計ではありません。パソコンなどの近くに設置しないでください。

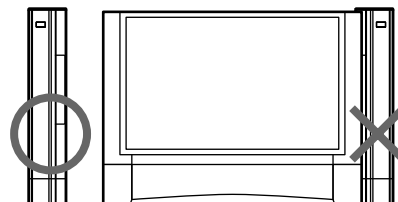
■設置例

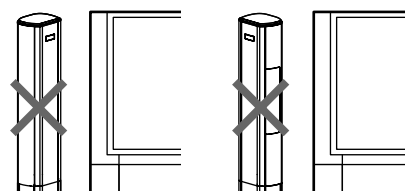
視聴位置からフロントセンター🅐 🅑／サラウンド🅒 🅓の各スピーカーを同じ距離に設置するのが理想です。
なお、角度はあくまでも目安です。

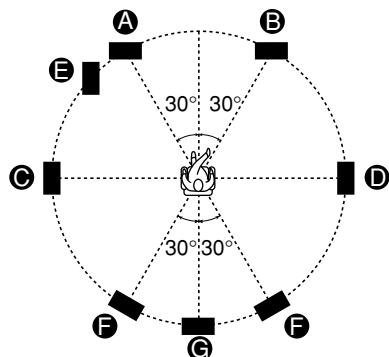
アクティブサブウーハー（🅔：SB-WA1000）
後面側に5 cm以上の空間が空くように設置してください。
置く場所によって低域の周波数特性が変化します。部屋の隅に置くと音量が増加します。
- 壁掛けできません。床に置いてください。

フロントセンタースピーカーL、R
（🅐左：SB-FC1100L/SB-FC1000L、🅑右：SB-FC1100R/SB-FC1000R）
テレビの左右に設置してください。
「リアルセンター」方式の効果を正しく得るために、以下のことを参考に設置してください。
- 左右を**逆に設置しない**でください。

フロントセンタースピーカーL（SB-FC1100L/SB-FC1000L）
フロントセンタースピーカーR（SB-FC1100R/SB-FC1000R）
センタースピーカー

- センタースピーカー部分が視聴者から隠れてしまうと「リアルセンター」方式の効果が十分に得られません。
- 外側に向けたり、大きく内側に向けたりせずに、ほぼ正面に向けて設置してください。

次の形態での設置ができます。
（☞4～5ページ、7ページ）
- スタンドタイプでの設置ができます。
- 壁掛けタイプでの設置ができます。

30° 30°
120°

サラウンドスピーカー
（🅒左、🅓右：SB-HS1100/SB-HS1000）
左右の区別はありません。
視聴位置の左右横またはやや後ろに設置してください。
次の形態での設置ができます。（☞ 6～7ページ）
- スタンドタイプでの設置ができます。
- 壁掛けタイプでの設置ができます。

■サラウンドバックスピーカー🅕（別売）を設置する場合

- **サラウンドスピーカー（🅒左、🅓右：SB-HS1100/SB-HS1000）**
  視聴位置の左右横に設置します。
- **サラウンドバックスピーカー（🅕：SB-HS1100/SB-HS1000A）（別売）**
  視聴位置の30°後方に設置してください。
  （1台のみ設置する場合は、視聴位置の後方に設置してください🅖）

付属品・部品の確認　設置のしかた

組み立て・設置について

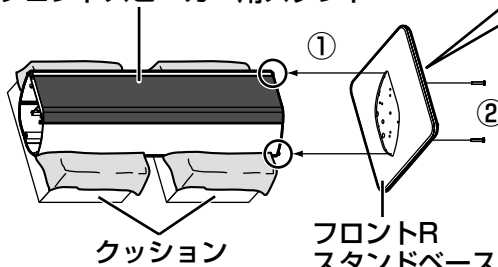
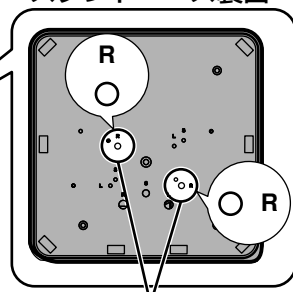
フロントセンタースピーカーをスタンドタイプに組み立てる

- スピーカー本体前面のネットに無理な力を加えないでください。前面のネットは取り外しができません。
- 包装ケース内のクッションを下に敷くと安定した作業ができます。スピーカー本体のネット側を上向きに置きます。傷付き防止のため必ず布などを敷いてください。
- 各作業でのネジ止めは、ゆるみのないようしっかり締めてください。

1

フロントスピーカー用スタンドにフロントRスタンドベースを取り付ける

①フロントスピーカー用スタンド（付属）の突起2ヵ所とフロントRスタンドベース（付属）の穴2ヵ所の位置をあわせて差し込む
②スタンドベース取り付けネジ2本（付属）で取り付ける

スタンドベースを取り付ける側の内側に「こちら側をスタンドベースへ取り付けてください。」と表示されたシールが貼ってあります。

“R”の表示があるネジ穴2ヵ所を使って取り付けてください

- フロントRスタンドベースの包装袋は、フロントセンタースピーカーRの包装袋と同じ色のテープで止められています。同じテープの色のものを使って組み立てをしてください。
- フロントLスタンドベースと、フロントセンタースピーカーLの包装袋は同じ色のテープで止められています。
- フロントセンタースピーカーLを組み立てるときは“L”の表示があるネジ穴を使って取り付けてください。

2

フロントセンタースピーカーRにスタンドを取り付ける

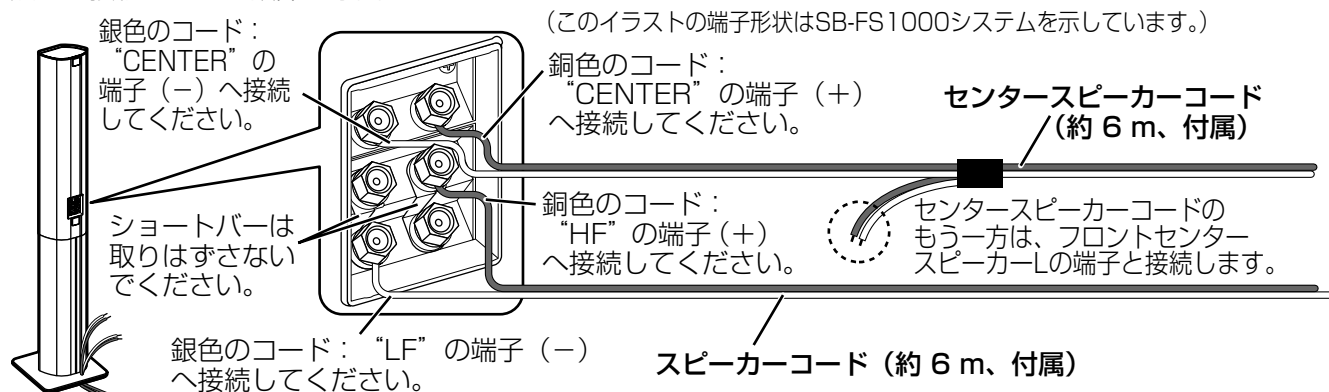
①組み立てたスタンドの突起2ヵ所とフロントセンタースピーカーRの穴2ヵ所の位置をあわせて差し込む
②スタンド取り付けネジ（付属）で取り付ける

中央のネジ穴を使って取り付けてください。

3 スピーカーコード（付属）をスタンドベースの穴に通す

スタンドベース裏面の“R”の表示のある穴からセンタースピーカーコード（約６m、付属）とスピーカーコード（約６m、付属）を通してください。（フロントセンタースピーカーLの場合は“L”の穴を使用します。）

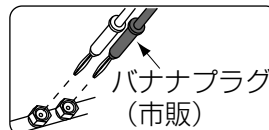
4 スピーカー端子にスピーカーコード（付属）を接続する

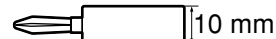
スピーカーコードの（＋）と（－）をご確認の上、正しく接続してください。
誤った接続をすると故障の原因になります。

①端子の穴が見えるまでつまみを回してゆるめる

②穴に芯線を差し込み、つまみを締める
- スピーカーコードのバナナプラグ（4 mmプラグ）側はアンプへ接続してください。

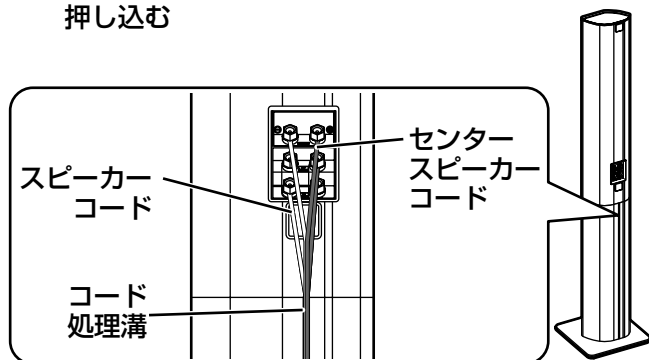
お願い
スピーカーコードの銅色側（＋）と銀色側（－）は絶対にショートさせないでください。

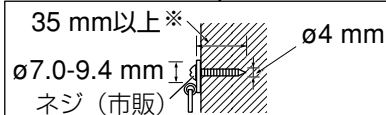
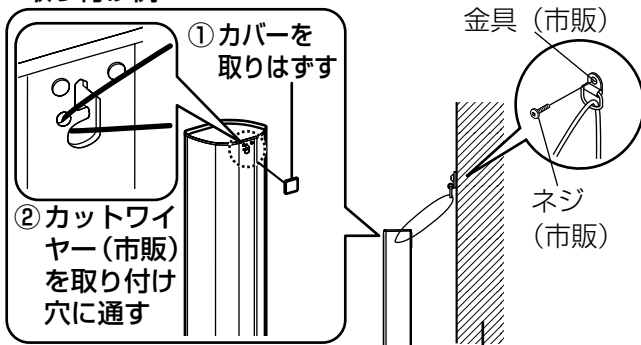
■スピーカー端子との接続に市販のバナナプラグ（4 mmプラグ）をつかうときは

端子のつまみを完全に締めて接続してください。

- バナナプラグ本体の径が10 mm以下のものを使用してください。

10 mm

- 壁掛けタイプで設置するときは、バナナプラグを使用しないでください。

5 スピーカーコードを固定する

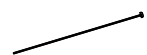
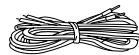
スタンドのコード処理溝にスピーカーコードを押し込む

転倒防止用ワイヤーを取り付けるには

取り付け例

お願い
取り付ける壁およびネジ（市販）には、フロントセンタースピーカーは70 kg以上、サラウンドスピーカーは50 kg以上の重量を支えられる強度が必要です。施工業者の方などにご相談ください。
※35 mm以上の長さのネジ（☞上記）は、木製の柱に取り付ける場合です。それ以外の場合は、必ず70 kg以上または50 kg以上の重量を支えられるように取り付けてください。

6 手順1から5を繰りかえしてフロントセンタースピーカーLを組み立ててください。

組み立て・設置について

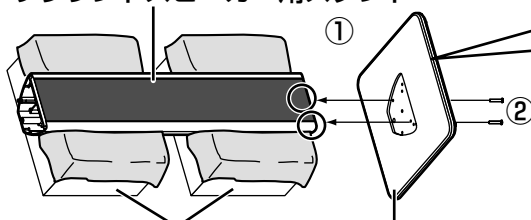
サラウンドスピーカーをスタンドタイプに組み立てる

組み立て／接続に必要な付属品・部品			
	□ サラウンドスピーカー用スタンド×2本	□ サラウンドスタンドベース×2個	□ スタンドベース取り付けネジ×4本
	□ スタンド取り付けネジ×2本	□ スピーカーコード（約10 m）×2本	

- スピーカー本体前面のネットに無理な力を加えないでください。前面のネットは取り外しができません。
- 包装ケース内のクッションを下に敷くと安定した作業ができます。スピーカー本体のネット側を上向きに置きます。傷付き防止のため必ず布などを敷いてください。
- 各作業でのネジ止めは、ゆるみのないようしっかり締めてください。

1 サラウンドスピーカー用スタンドにサラウンドスタンドベースを取り付ける

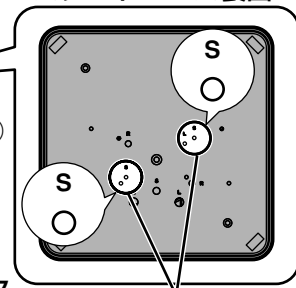
①サラウンドスピーカー用スタンド（付属）の突起2ヵ所とサラウンドスタンドベース（付属）の穴2ヵ所の位置をあわせて差し込む

スタンドベースを取り付ける側の内側に「こちら側をスタンドベースへ取り付けてください。」と表示されたシールが貼ってあります。

②スタンドベース取り付けネジ2本（付属）で取り付ける

使用するクッションはフロントセンタースピーカー組み立て時と同じです。

スタンドベース裏面

S

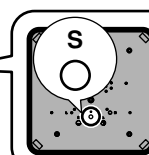
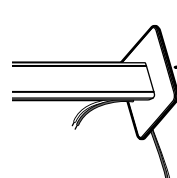
S

“S”の表示があるネジ穴2ヵ所を使って取り付けてください

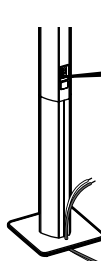
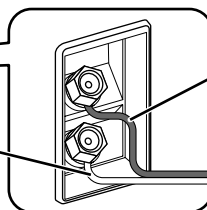
2 サラウンドスピーカーにスタンドを取り付ける

①組み立てたスタンドの突起2ヵ所とサラウンドスピーカーの穴2ヵ所の位置をあわせて差し込む
②スタンド取り付けネジ（付属）で取り付ける

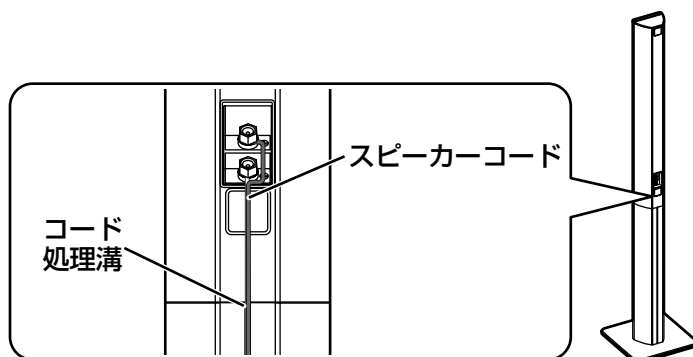
中央のネジ穴を使って取り付けてください。

3 スピーカーコード（付属）をスタンドベースの穴に通す

S

スタンドベース裏面の“S”の表示のある穴からスピーカーコード（約10 m、付属）を通してください。

4 サラウンドスピーカー端子にスピーカーコード（付属）を接続する

5 スピーカーコードを固定する

スタンドのコード処理溝にスピーカーコードを押し込む

6 手順1から5を繰りかえして残りのサラウンドスピーカーを組み立ててください。

転倒防止用ワイヤーを取り付けるには☞5 ページを参照してください。

フロントセンターおよびサラウンドスピーカーを壁掛けする

組み立て／接続に必要な付属品・部品	□ スピーカーコード（約6 m）×2本	□ センタースピーカーコード（約6 m）×1本	□ スピーカーコード（約10 m）×2本	□ スペーサー ×16個

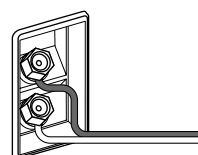
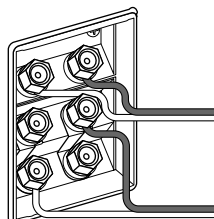
- 各作業でのネジ止めは、ゆるみのないようしっかり締めてください。
- 取り外した部品は、保管してください。

（このイラストの端子形状はSB-FS1000システムを示しています。）

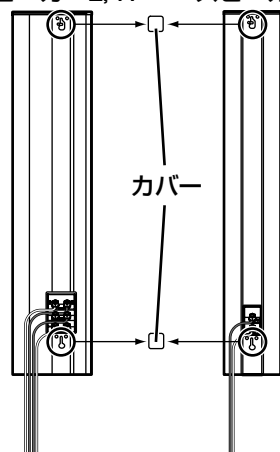
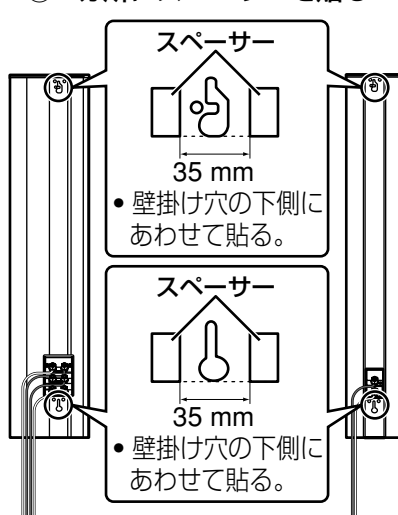
1 スピーカーコード（付属）を端子に接続する

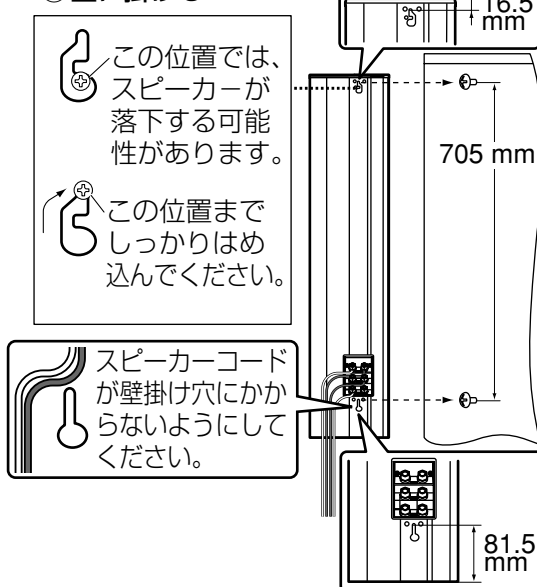
☞5ページの手順4と☞6ページの手順4を参照してください。

- 壁掛けする場合は、スピーカー本体にスタンドおよびスタンドベースを取り付ける必要はありません。

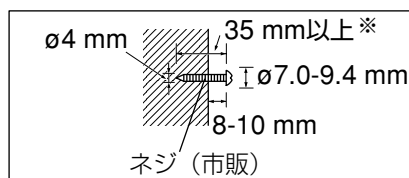
フロントセンタースピーカーL、R

サラウンドスピーカー

2 スペーサーを貼り、壁に掛ける

①背面のカバーをはずす

②4ヵ所にスペーサーを貼る

③壁に掛ける

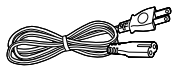
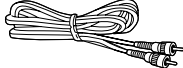
お願い

取り付ける壁およびネジ（市販）には、フロントセンタースピーカーは30 kg以上、サラウンドスピーカーは20 kg以上の重量を支えられる強度が必要です。施工業者の方などにご相談ください。

※35 mm以上の長さのネジ（☞右記）は、木製の柱に取り付ける場合です。それ以外の場合は、必ず30 kg以上または20 kg以上の重量を支えられるように取り付けてください。

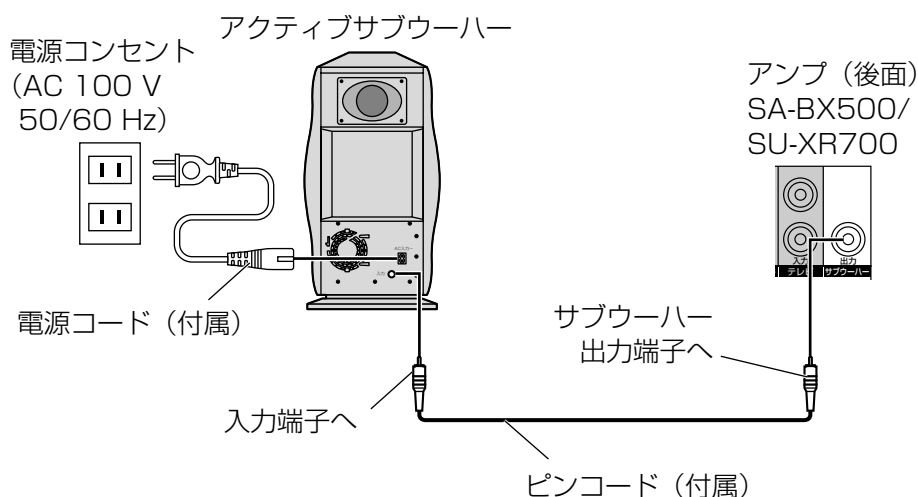
ø4 mm
35 mm以上※
ø7.0-9.4 mm
8-10 mm
ネジ（市販）

■壁掛けしたスピーカーシステムをスタンドタイプに組み立てるには

① 上記手順を逆に行い、お買い上げ状態に戻す

② スタンドタイプに組み立てる（☞4〜7ページ）

アンプへの接続のしかた

接続に必要な付属品	□電源コード	□ピンコード

■接続

- 接続の前にアンプの電源を切ってください。
- 全てのコードを接続した後に、電源コードを接続してください。

- スピーカーコードを接続した状態でスピーカーを移動しないでください。ショートなどの原因になることがあります。
- スピーカーコードの配線処理は、束ねてひもでくくるなどして、確実に行ってください。

電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。

■接続できるアンプ

● **アクティブサブウーハー**
サブウーハー用のピンタイプ出力端子を備えたアンプに接続できます。このアンプ以外の機器には接続できません。

● **フロントセンター／サラウンド**
本機のインピーダンスと許容入力に適合したアンプが必要です。
- 本機のインピーダンス：6 Ω※1
- 本機の許容入力：100 W※1（定格）※2

下記定格に適合したアンプに接続できます。このアンプ以外の機器には接続できません。
- インピーダンスが6 Ωのスピーカーに適合したアンプ
- 定格出力が100 W（インピーダンスが6 Ωのとき）またはそれ以下のアンプ

この定格以上のアンプを使用すると、過大入力による異常音が発生したり、アンプやスピーカーが破損したり、火災の危険が生じる場合があります。もし、破損が生じたり演奏中に異常が生じたときは、システムの電源コードを抜いて専門のサービスマンにご相談ください。
なお、アンプによっては複数の定格出力を記載しているものがありますのでよくご確認ください。
※1 センタースピーカー部はLとRを接続したときの値です。
※2 国際電気標準会議（IEC）の基準に準拠した定格入力値を表しています。

スピーカーコードの接続
赤色のプラグ：アンプの⊕端子へ
黒色のプラグ：アンプの⊖端子へ

赤色のプラグ
黒色のプラグ

サラウンドバック
（SB-HS1100/
SB-HS1000A）（別売）
（左）
（右）

サラウンド
（左）

サラウンド
（右）

フロント
センター
（右）

フロント
センター
（左）

サラウンド
バック左端子へ

アンプ（後面）
SA-BX500/SU-XR700

サラウンド
バック右端子へ

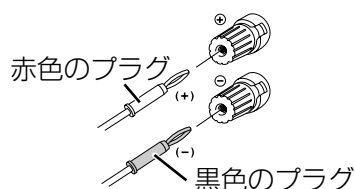
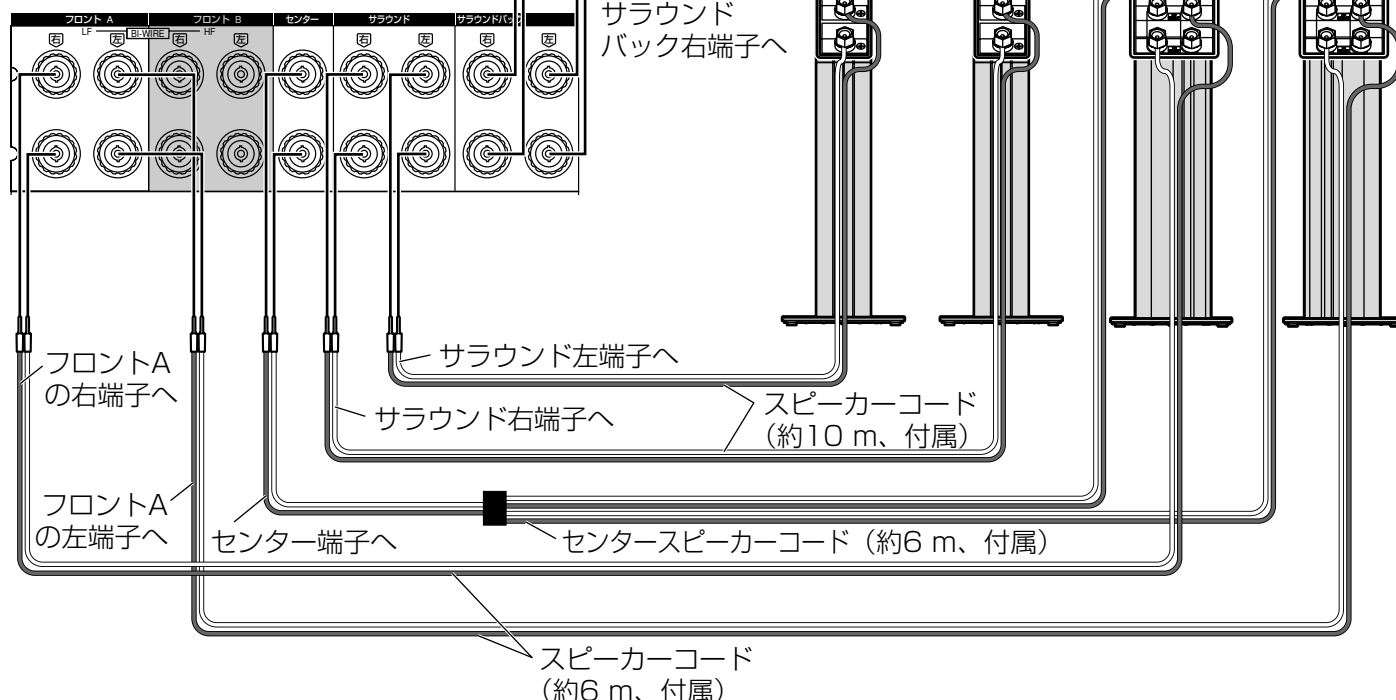
サラウンド左端子へ

フロントA
の右端子へ

サラウンド右端子へ

スピーカーコード
（約10 m、付属）

フロントA
の左端子へ

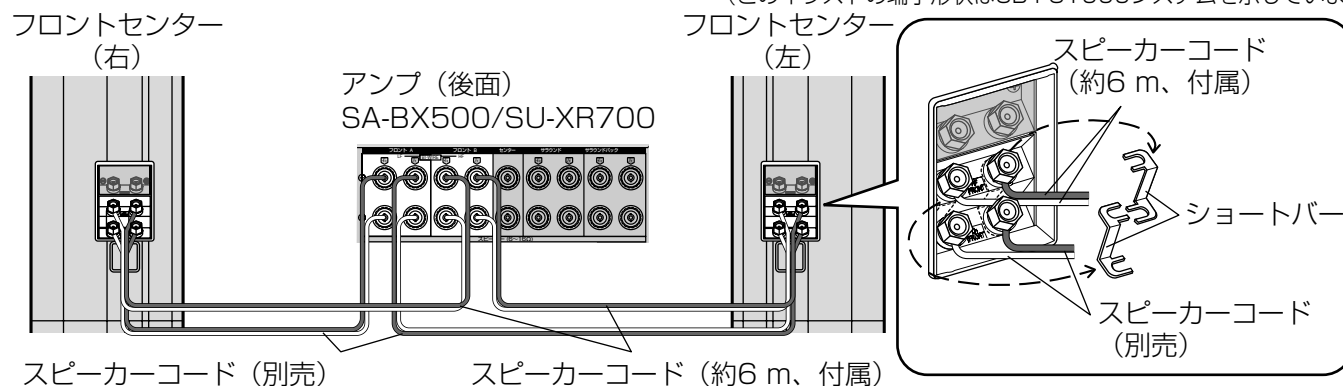
センター端子へ

センタースピーカーコード（約6 m、付属）

スピーカーコード
（約6 m、付属）

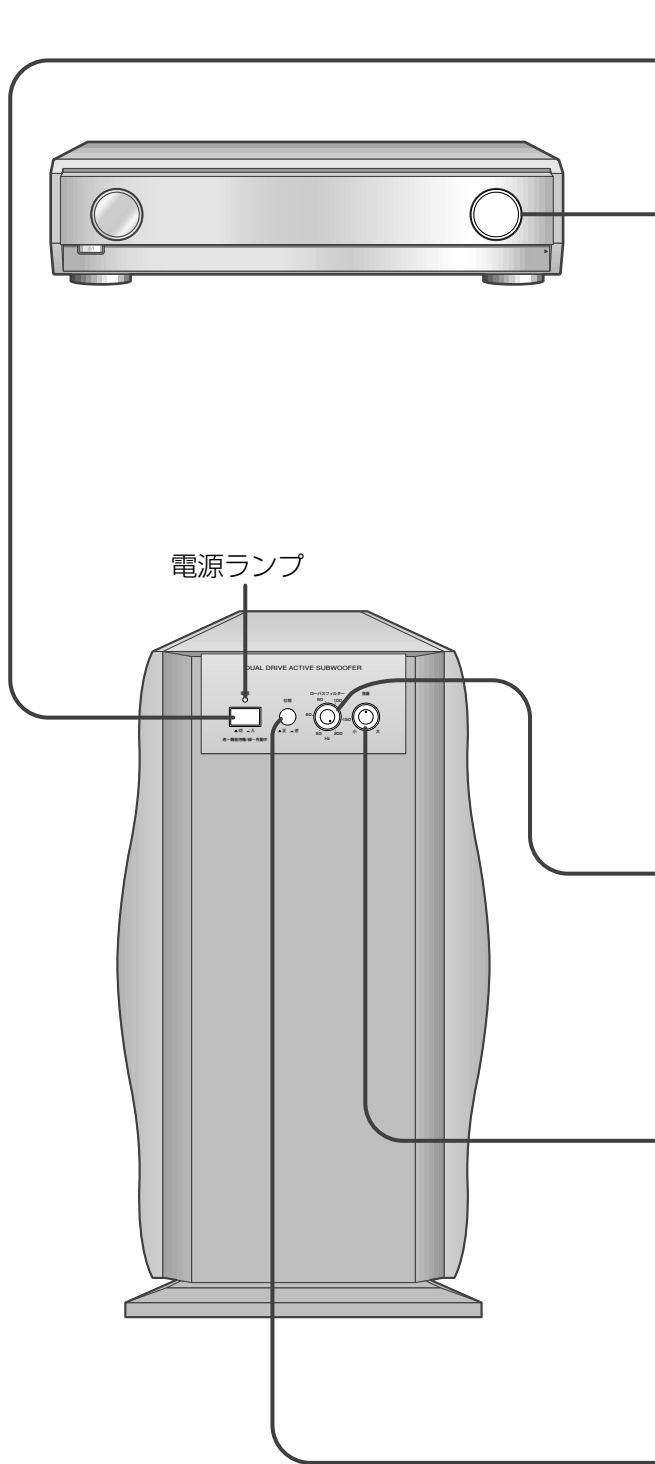
■ バイワイヤリング接続

本機のフロントスピーカー端子は、中高域(HF)用と低域(LF)用を独立させています。アンプにA、Bなどの2系統のスピーカー端子がある場合は、この接続をすることにより、さらに音場に拡がりと奥行感のある音をお楽しみいただけます。

- ショートバーは、取り外します。（必ず保管しておいてください。）
- スピーカーコード（別売）を使ってフロントセンタースピーカーとアンプのHF、LF両方の端子を接続します。
- アンプのスピーカー切換えスイッチはAとB両方の出力にします。（詳細はAVコントロールアンプSA-BX500またはSU-XR700の取扱説明書をご覧ください。）

（このイラストの端子形状はSB-FS1000システムを示しています。）

●アンプへの接続のしかた

アクティブサブウーハーの使いかた

アクティブサブウーハーは、人の耳が低音域において方向感覚を感じにくいことを利用し、重低音をモノラルで再生します。
スピーカーシステムと組み合わせると、低音域が増強されます。

1 [電源] を押して“▂入”にする

- 電源が入り、電源ランプが点灯（緑色）します。

2 接続したアンプ（SA-BX500またはSU-XR700）を操作して音を出し、フロントセンタースピーカーなどの音量を調節する

- AVコントロールアンプSA-BX500またはSU-XR700の取扱説明書をご覧ください。

お願い

アンプ側で低音を増強し過ぎないでください。
アンプ側で低音を増強すると音がひずみやすくなります。

お知らせ

アンプのボリュームを最小位置にした状態、またはアンプからの信号がない状態が約10分間以上続いた場合には、自動的に入力待機状態（電源ランプは赤色に点灯）になります。アンプのボリュームを上げたとき、またはアンプからの信号が入ると自動的に動作状態（電源ランプは緑色に点灯）になります。
但し、接続するアンプからのノイズ等の影響により動作状態を継続する場合があります。

3 [ローパスフィルター] を回して、本機が再生する周波数領域を調節する

- 周波数特性変化（☞右記）を参考にしてください。
- 接続したアンプで、サブウーハーの周波数領域を調節する場合、本機は“200 Hz”に設定してください。

4 [音量] を回して、本機の音量（低音）を調節する

- 最小位置“小”から徐々に回し、フロントセンタースピーカーなどとバランスが取れるように低音がひずまない範囲で調節してください。
- レベル変化（☞右記）を参考にしてください。

5 本機とフロントセンタースピーカーの音のつながりが不自然なときは [位相] を押して、位相を切り換える

▆ 正：入力信号と出力の位相が同じ
▂ 逆：入力信号と出力の位相が逆

■2チャンネルステレオ音楽再生などのときは

マルチチャンネル映画ソース再生時のアンプと本機の設定では低音が出過ぎる場合があります。
アンプ側でサブウーハーレベルを下げてください
また、本機の［ローパスフィルター］の周波数を下げるとより自然な音質が得られる場合があります。

■終わるときは、[電源] を押して“▆切”にする

- 電源ランプが消灯します。
- 再度使用するときは、［電源］を押して“▂入”にするだけで調節の必要はありません。
- スピーカーの設置を変更した場合は、再度調節をやり直してください。

本機を接続するアンプの設定について

■［ローパスフィルター］による周波数特性変化

■［音量］によるレベル変化

AVコントロールアンプSA-BX500またはSU-XR700の設定を下記のように行ってからご使用ください。

- フロントセンタースピーカー、サラウンドスピーカーはアクティブサブウーハーと組み合わせて使用します。
- AVコントロールアンプの設定は[SMALL]にしてください。（☞下記）
  AVコントロールアンプ SA-BX500をDVDアナログ入力で使用している場合は、DVDプレーヤーなどの再生機器の設定を[SMALL]にしてください。
- AVコントロールアンプSA-BX500またはSU-XR700の取扱説明書「アンプの設定をする」をご参照ください。

スピーカーの有無とサイズを設定する

1. 「初期設定」モードで“SPK SIZE”を選び、決定する
2. 設定するスピーカーを選び（☞下記）、決定する
3. 設定を変更し（☞下記）、決定する
4. 設定を終える

設定するスピーカー	設定項目
SUBW（サブウーハー）	YES（接続している）
LR（フロント）	SMALL
C（センター）	SMALL
S（サラウンド）	SMALL
SB（サラウンドバック）	NONE（接続していない） 1-SPK（1台接続時） 2-SPK（2台接続時）

- サラウンドバックスピーカー（別売）を1台接続時アンプのサラウンドバック“左”端子に接続してください。（☞9ページ）
- サラウンドバックスピーカー（別売）を2台接続時アンプのサラウンドバック“左”と“右”端子に接続してください。

低域フィルターの設定

1. 「初期設定」モードで“FILTER FRQ”を選び、決定する
2. 低域フィルターの周波数を選び、決定する
   選択周波数：80
   （80 Hz以下の低音域をサブウーハーに出力）

お知らせ

「リアルセンター」方式をより効果的にするために、AVコントロールアンプSA-BX500またはSU-XR700のセンタースピーカーの出力レベルを、＋1 dB〜＋3 dBに上げることをお奨めします。

- 自動スピーカー設定機能をご使用の場合は、設定終了後にセンタースピーカーの出力レベルを＋1 dB〜＋3 dBに上げることをお奨めします。
- 出力レベルの変更は、SA-BX500またはSU-XR700の取扱説明書の「スピーカーのレベルを調整する」「スピーカーの音量調整をする」をご参照ください。

主な仕様

■フロントセンタースピーカー（SB-FC1100L/SB-FC1100R）（SB-FC1000L/SB-FC1000R）

●フロントスピーカー部

項目	仕様
型式	3ウェイ4スピーカーシステム バスレフ型
使用スピーカー	
ウーハー	8 cmコーン型×2
ツイーター	2.5 cmドーム型×1
スーパーツイーター	1.2 cmドーム型×1
インピーダンス（HF/LF）	6 Ω
許容入力（IEC）（HF/LF）	200 W（最大） 100 W（定格）
出力音圧レベル	82.5 dB/W（1.0 m）
クロスオーバー周波数	2.5 kHz, 20 kHz
再生周波数帯域	65 Hz ～ 100 kHz（－16 dB） 75 Hz ～ 90 kHz（－10 dB）

●センタースピーカー部

項目	仕様
型式	3ウェイ3スピーカーシステム バスレフ型
使用スピーカー	
ウーハー	8 cmコーン型×1
ミッドレンジ	6.5 cmコーン型×1
ツイーター	2.5 cmドーム型×1
インピーダンス	12 Ω
許容入力（IEC）	100 W（最大） 50 W（定格）
出力音圧レベル	80 dB/W（1.0 m）
クロスオーバー周波数	800 Hz, 3 kHz
再生周波数帯域	65 Hz ～ 50 kHz（－16 dB） 75 Hz ～ 40 kHz（－10 dB）

●本体総合

項目	仕様
寸法（幅×高さ×奥行）	279 mm × 1422 mm× 279 mm（スタンド含む） 175 mm × 802 mm × 102 mm（壁掛け時）
質量	約 13.2 kg（スタンド含む） 約 5.4 kg（壁掛け時）

■サラウンドスピーカー（SB-HS1100/SB-HS1000）

項目	仕様
型式	2ウェイ3スピーカーシステム バスレフ型
使用スピーカー	
ウーハー	8 cmコーン型×2
ツイーター	2.5 cmドーム型×1
インピーダンス	6 Ω
許容入力（IEC）	200 W（最大） 100 W（定格）
出力音圧レベル	82.5 dB/W（1.0 m）
クロスオーバー周波数	2.5 kHz
再生周波数帯域	65 Hz ～ 50 kHz（－16 dB） 75 Hz ～ 40 kHz（－10 dB）
寸法（幅×高さ×奥行）	279 mm × 1422 mm × 279 mm（スタンド含む） 125 mm × 802 mm × 87 mm（壁掛け時）
質量	約 9.8 kg（スタンド含む） 約 3.7 kg（壁掛け時）

■アクティブサブウーハー（SB-WA1000）

●スピーカー部

項目	仕様
型式	1ウェイ2スピーカーシステム バスレフ型
使用スピーカー	
ウーハー	17 cmコーン型×2
出力音圧レベル	83 dB/W（1.0 m）
再生周波数帯域（アンプ込み）	28 Hz ～ 300 Hz（－16 dB） 32 Hz ～ 240 Hz（－10 dB）

●アンプ部

項目	仕様
定格出力（全高調波ひずみ率 0.9 %）	100 W（6 Ω）×2
入力感度/入力インピーダンス	300 mV/33 kΩ（50 Hz）（RCAジャック）
位相切換	正／逆（切換）
ローパスフィルター	50～200 Hz 連続可変

●本体総合

項目	仕様
電源	AC 100 V、50/60 Hz
消費電力	150 W
寸法（幅×高さ×奥行）	254 mm × 496 mm × 500 mm
質量	約 22 kg
入力待機状態での消費電力	**1.5 W**

注）この仕様は、性能向上のため変更することがあります。

「JIS C 61000-3-2 適合品」
：JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性一第3-2部：限度値一高調波電流発生限度値（1相当たりの入力電流が20 A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

使用上のお願い

■音量を上げすぎたり、大きな音量で連続使用したりしないでください

音がひずみ、スピーカーの特性が劣化したり、寿命が極端に短くなる原因になることがあります。

■通常の使用時でも以下のような場合は、スピーカー破損の原因になることがありますので、音量を下げてご使用ください。

- 再生音がひずんだとき
- マイクやレコードプレーヤーのハウリング音、FM放送の局間ノイズ、発振器や正弦波信号などのテストディスク、電子楽器など、大きな信号が連続して加わるとき
- アンプなどの音質調整をするとき
- 接続機器の電源ボタンを入／切するとき

■保護回路について

●フロントセンター／サラウンドスピーカー

本機には保護回路が備わっています。アンプからの過大入力など異常な信号が入ってきたときは、保護回路が働いて自動的に信号入力が遮断されます。

- **再生中、音が急に途切れたら・・・**
  ❶アンプの音量を下げる
  ❷再生ソースや接続に異常（ショートなど）がないか確かめる
  もし異常がなければ、数分後に保護回路が解除され音が出るようになります。
- **保護回路が解除された後は・・・**
  アンプの音量を上げすぎないようにしてください。

●アクティブサブウーハー

本機には保護回路が備わっています。異常に温度が高い場所で使用したり、過大な入力信号が入ってきたり、本機内部に異常が生じた場合、保護回路が働いて出力を遮断することがあります。
保護回路が解除されるまでには、1時間ほどかかる場合があります。

- **再生中、音が急に途切れたら・・・**
  ❶アンプの音量を下げる
  ❷本機の電源を“▄ 切”にする
  ❸使用場所の温度や接続に異常がないか確かめる
  ❹異常があれば原因を解消し、本機の電源を“▄ 入”にする
- **それでも直らない場合は・・・**
  電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。

安全上のご注意 （必ずお守りください）

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠ **警告** 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。	⚠ **注意** 「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

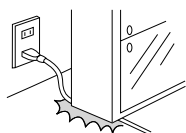
■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

してはいけない内容です。	実行しなければならない内容です。

本機のイラスト（姿図）は、イメージイラストであり、ご購入のものとは形状が多少異なる場合がありますが御了承ください。

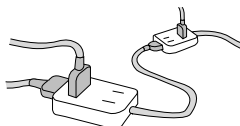
⚠ 警告

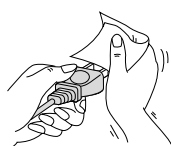
電源コード・プラグを破損するようなことはしない

（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない。）

傷んだまま使用すると、火災・感電・ショートの原因になります。
- 抜くときは、プラグを持ち、まっすぐ抜いてください。
- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や、発熱による火災の原因になります。
- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使わないでください。

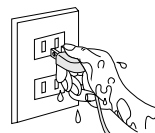
コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100V以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。
- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

スタンドベース取り付けネジやスペーサーは、乳幼児の手の届くところに置かない

誤って飲み込むと身体に悪影響を及ぼします。
- 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

雷が鳴ったら、本機や電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因になります。

異常があったときは電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

- **機器内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき**
- **落下などで外装ケースが破損したとき**
- **煙や異臭、異音が出たとき**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。
- 販売店にご相談ください。

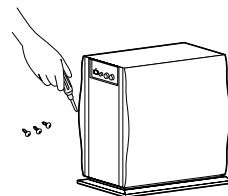
安全上のご注意 （必ずお守りください）

⚠警告

内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない

ショートや発熱により、火災・感電の原因になります。
- 機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

分解、改造をしない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。
- 内部の点検や修理は、販売店にご依頼ください。

⚠注意

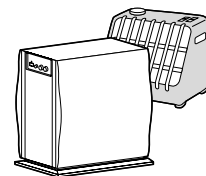
不安定な場所に設置しない

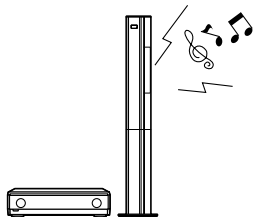
- **上に大きなもの、重いものを載せない**
- **取扱説明書に記載されている以外の方法で壁などへ取り付けない**
  (SB-HS1100/SB-FC1100L/SB-FC1100R)
  (SB-HS1000/SB-FC1000L/SB-FC1000R)
- **壁や天井に取り付けない（SB-WA1000）**
- **高い場所、水平以外の場所、振動や衝撃の起こる場所に置かない**

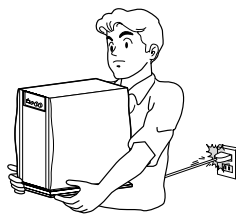
機器が落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。

油煙や湯気の当たるところ、湿気やほこりの多いところに置かない

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。

異常に温度が高くなるところに置かない

外装ケースや内部部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。
- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

スピーカーの許容入力を超えるアンプに接続しない

- 定格以上の出力を持つアンプに接続すると、スピーカーが発熱し、火災の原因になることがあります。
  (SB-HS1100/SB-FC1100L/SB-FC1100R)
  (SB-HS1000/SB-FC1000L/SB-FC1000R)

コードを接続した状態で移動しない

接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。また、引っかかって、けがの原因になることがあります。

機器に乗らない

倒れたりして、けがの原因になることがあります。
- フロントセンター／サラウンドスピーカーのスタンドベースの上に乗って、スピーカー本体をゆらしたりしないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

長期間使わないときや、お手入れのときは、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、ろう電などにより、火災の原因になることがあります。

保証とアフターサービス　（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください。

転居や贈答品などでお困りの場合は…

● 修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
● 使いかた・お買い物などのお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保管してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

■補修用性能部品の保有期間　8年

当社は、このスピーカーシステムの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しています。
注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

ご連絡いただきたい内容			
製品名	スピーカーシステム	お買い上げ日	年　月　日
品番	SB-FS1100/SB-FS1000/SB-WA1000	故障の状況	できるだけ具体的に

「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」などはホームページをご活用ください。http://panasonic.jp/support/

修理を依頼されるとき

もう一度取扱説明書をよくお読みいただき、ご確認のうえ、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

- **保証期間中は**
保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。
- **保証期間を過ぎているときは**
修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。下記修理料金の仕組みをご参照のうえ、ご相談ください。
- **修理料金の仕組み**
修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。
出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

パナソニック株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、折り返し電話させていただくときのため、ナンバー・ディスプレイを採用しています。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

修理に関するご相談

パナソニック 修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号）　**0570-087-087**

- 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS・IP/光電話等、ナビダイヤルがご利用できない場合は、最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

使いかた・お買い物などのご相談

パナソニック お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時
電話 フリーダイヤル **0120-878-365**（パナは 365日）
■携帯電話・PHSでのご利用は… **06-6907-1187**
FAX フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan
Tokyo (03) 3256-5444　**Osaka** (06) 6645-8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

パナソニック 修理ご相談窓口

- 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

北海道地区

地区	所在地	電話
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	☎(011)894-1251
旭川	旭川市2条通16丁目1166	☎(0166)22-3011
帯広	帯広市西20条北2丁目23-3	☎(0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	☎(0138)48-6631

東北地区

地区	所在地	電話
青森	青森市大字浜田字豊田364	☎(017)775-0326
秋田	秋田市外旭川字小谷地3-1	☎(018)868-7008
岩手	盛岡市厨川5丁目1-43	☎(019)645-6130
宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18	☎(022)387-1117
山形	山形市平清水1丁目1-75	☎(023)641-8100
福島	郡山市亀田1丁目51-15	☎(024)991-9308

首都圏地区

地区	所在地	電話
栃木	宇都宮市上戸祭3丁目3-19	☎(028)689-2555
群馬	前橋市箱田町325-1	☎(027)254-2075
茨城	つくば市筑穂3丁目15-3	☎(029)864-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	☎(048)728-8960
千葉	千葉市中央区末広5丁目9-5	☎(043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	☎(03)5477-9780
山梨	甲府市宝1丁目4-13	☎(055)222-5822
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	☎(045)847-9720
新潟	新潟市東区東明1丁目8-14	☎(025)286-0180

中部地区

地区	所在地	電話
石川	金沢市横川3丁目20	☎(076)280-6608
富山	富山市根塚町1丁目1-4	☎(076)424-2549
福井	福井市問屋町2丁目14	☎(0776)21-0622
長野	松本市寿北7丁目3-11	☎(0263)86-9209
静岡	静岡市葵区千代田7丁目7-5	☎(054)287-9000
愛知	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	☎(052)819-0225
岐阜	岐阜市中鶉4丁目42	☎(058)278-6720
高山	高山市花岡町3丁目82	☎(0577)33-0613
三重	津市久居野村町字山神421	☎(059)254-5520

近畿地区

地区	所在地	電話
滋賀	栗東市霊仙寺1丁目1-48	☎(077)582-5021
京都	京都市伏見区竹田中川原町71-4	☎(075)646-2123
大阪	大阪市城東区関目2丁目15-5	☎(06)6359-6225
奈良	大和郡山市筒井町800番地	☎(0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	☎(073)475-2984
兵庫	神戸市須磨区弥栄台3丁目13-4	☎(078)796-3140

中国地区

地区	所在地	電話
鳥取	鳥取市安長295-1	☎(0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	☎(0859)34-2129
松江	松江市平成町182番地14	☎(0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	☎(0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	☎(0855)22-6629
岡山	岡山市田中138-110	☎(086)242-6236
広島	広島市西区南観音1丁目13-5	☎(082)295-5011
山口	山口市小郡下郷220-1	☎(083)973-2720

四国地区

地区	所在地	電話
香川	高松市勅使町152-2	☎(087)868-6388
徳島	徳島市沖浜2丁目36	☎(088)624-0253
高知	高知市仲田町2-16	☎(088)834-3142
愛媛	愛媛県伊予郡砥部町八倉75-1	☎(089)905-7544

九州地区

地区	所在地	電話
福岡	春日市春日公園3丁目48	☎(092)593-9036
佐賀	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044	☎(0952)26-9151
長崎	長崎市東町1919-1	☎(095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	☎(097)556-3815
宮崎	宮崎市本郷北方字草葉2099-2	☎(0985)63-1213
熊本	熊本市健軍本町12-3	☎(096)367-6067
天草	天草市港町18-11	☎(0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	☎(099)250-5657
大島	奄美市名瀬朝仁町11-2	☎(0997)53-5101

沖縄地区

地区	所在地	電話
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

お手入れ

■本機がよごれたら

柔らかい布でふいてください。
ひどい汚れは、薄めた台所用洗剤（中性）を含ませた布でふき、後はからぶきしてください。

- アルコールややシンナーは使わないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

音のエチケット
シンボルマーク

－このマークがある場合は－

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報

このシンボルマークはEU域内でのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

愛情点検　長年ご使用のスピーカーシステムの点検を！

こんな症状はありませんか	▶	
• 煙が出たり、異常なにおいや音がする • 音が出ないことがある • 正常に動作しないことがある • 商品に破損した部分がある • その他の異常や故障がある	▶	このような症状の時は、使用を中止し、故障や事故の防止のために、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ おぼえのため、記入されると便利です	お買い上げ日	年　　月　　日	品　番	SB-FS1100/SB-FS1000/SB-WA1000
	販売店名	☎（　　）　－	お客様ご相談窓口 ☎（　　）　－	

パナソニック株式会社　AVCネットワークス社　ネットワーク事業グループ
〒571-8504　大阪府門真市松生町1番15号

RQT8757-MS
M0706KS3088